

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『一人ひとりのいのちの輝きを大切に』を合言葉に、すべての子どもたちの自立と社会参加をめざし、学校・保護者・地域や関係機関との連携を図り、子どもたちの障がいや発達状況に応じた専門性の高い教育活動を行う学校をめざします。その実現のために、以下の4点を重点とした学校経営に取り組みます。

1. 児童生徒の一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動をすすめる学校
2. 支援教育に関する高い専門性に基づく教育をすすめる学校
3. 保護者や地域に信頼される開かれた学校
4. 児童生徒の生命を慈しみ人権を守る安心で安全な学校

2 中期的目標

1. 一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動の推進

- (1) 児童生徒一人ひとりのニーズに応じた自己実現や社会参加を促進する。
- (2) 学部間の連携を深め、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた※キャリア教育等の充実を図る。
- (3) 「学校経営推進費事業」の「パワー自立活動 プロジェクト」(2年目)等を通して、自立活動の指導の充実をめざす。
- (4) 「個別の教育支援計画」の活用による教育活動の充実を図る。

※キャリア教育：すべての児童生徒の願いに基づいて、ライフステージや発達段階に応じた課題や役割を果たすことで、意欲や生きる力を身につけ、社会参加と自立および豊かな生活をする力を育む

※ 教職員向け学校教育自己診断におけるキャリア教育に対する肯定的回答率については、令和元年度の67%に毎年増加をめざし、令和4年度には80%とする。

2. 支援教育に関する高い専門性と授業力の向上

- (1) 新学習指導要領に対応した教育課程を実践する。
- (2) 様々な児童生徒のニーズに対応できる専門性や授業力の向上を図る。
- (3) 教育環境 (ICT 機器・自立活動に関する機器・生涯スポーツ器具など) を整備し、それらを活用した指導内容の充実を図る。
- (4) 効率的・機能的な運営組織や業務の見直しを図りながら、教員の働き方改革を推進する。

3. 保護者や地域に信頼される開かれた学校づくり

- (1) 学校情報の積極的な発信に努める。特に学校ホームページの内容のスピーディーな更新と地域への広報活動の充実をめざす。
- (2) 進路指導を充実するとともに進路に関する適切な情報を全校的に提供する。
- (3) 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、小中高校との「交流及び共同学習」を計画的、組織的に継続して実施する。
- (4) 地域における支援教育の専門性向上のため、リーディングスタッフを中心としたセンター的機能の充実を進める。
- (5) 校内支援の充実のために校内体制の整備と地域連携の充実を図る。

4. 安全で安心な学校づくり

- (1) 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、様々な人権問題の解決をめざした教育の推進に努める。
- (2) 児童生徒の主体的な人権啓発活動を推進するために、児童生徒会人権委員会の活動を支援していく。
- (3) 大規模災害等の対応のために、実践的な訓練の実施と検証、及び安全対策・安全教育を推進する。
- (4) 医療的ケアを必要とする児童生徒の安全で安心な教育環境の確保のために、校内体制の充実と関係機関等との連携を強化する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><保護者による自己診断> 肯定的回答が85%以上の項目が半数以上を占め、全体としては肯定的回答が多い。 今年度は「新型コロナウイルス感染症」の影響で、様々な学校活動に制約がある中であっても、概ね保護者からの評価・信頼を得られているのではないかと考える。 No.4「学校は、いじめ等について子どもが困っていることがあれば適切に対応できるよう、体制が整っている」についての質問で、「分からない」回答が21.5%あった。理由のほとんどが「いじめにあったことがないのでわからない」「いじめがあるかどうかわからない」である。「学校としての体制が整っている」ことを引き続き周知していく必要がある。 No.7「学校は授業参観や懇談の機会をよく設けている」については、「新型コロナウイルス感染症」の影響で機会が減ってしまったことが大きく影響しているが、今後も可能な範囲で参観・懇談の機会の充実を図る必要がある。 No.12「学校は、子どものライフステージや発達段階に応じて、自分らしい生き方を実現していくための「キャリア教育」によく取り組んでいる」については、「わからない」が12.1%となり、「どこでもカフェ」や「共同学習」といった具体的な取り組みを積極的に実施できなかった影響が出たと考えられる。 全体を通して、「わからない」項目については昨年度同様にその理由を記入していただくことで、どのようなことで「わからない」のかがより明確になっている。 今年度の回答率が64%(昨年度63%)ということで、回答率向上に向けて今後も積極的に提出協力に向けたアナウンスが必要である。 保護者の視点から、「子どもが学校へ行くのを楽しみのしている」様子を高く評価していただいている。来年度も『一人ひとりのいのちの輝きを大切に』を合言葉に、行事や授業、児童生徒会活動の充実を図り、達成感や自己有用感を得ることが出来るような学校づくりを進めたい。</p>	<p><第1回>令和2年7月3日(金) 令和2年度 学校経営計画について ・今年度は「新型コロナウイルス感染症」の影響で、様々な学校活動に制約がある中「授業力の向上」に関わって、特定の教員の力量(職人技)のみに頼らない組織的な教育活動が大切だと感じている。教員の個性を存分に発揮し、それを共有できる研修体制を維持して欲しい。 ・学校として、受け手の立場に立った情報発信方法をさらに工夫して欲しい。 ・コロナ後の生活スタイルへの変容は大きくなることが予想され、学校に求められる対応も変わっていくだろう。単に「デジタル化」と言っても、「これまでの形(アナログ)のデジタル化」と、もう一つは「これまでなかった形のデジタル化」とがある。それらを踏まえて、学校として何が出来るかを時代に沿って考えていく必要があるだろう。 ・これから求められる「教員の専門性」とは何かを考えた時に、子どもたちに関わる人々と連携していく中で、見つけ出し、創り出していくことが大切だと考えている。新学習指導要領にある「主体的、対話的で深い学び」が大切だとされているが、「主体的な学び」⇔教員の「動機付け」、「対話的な学び」⇔教員の「応答力」、「深い学び」⇔教員の「サポート力」、それぞれを深めていくという観点が重要である。そのことをしっかりと認識したうえで、教員のスキルアップの取り組みを進めて欲しい。 <第2回>令和2年11月24日(火) コロナ禍における学校行事実施報告 ・「やらないのではなく、どうすれば出来るか」という視点に立って、学校として取り組む中で、経験や体験を通じて成長していく子どもたちの姿を見ることができた。これからも「どうしたら出来るか」という観点を持ち続けて欲しい。 ・教職員の工夫と発想の豊かさに改めて感銘を受けた。コロナ禍においても、学校には止</p>

府立箕面支援学校

<p><教職員による自己診断> No.9「学校は、いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っている」については、肯定的回答が昨年度より10%以上上昇し、「いじめ対策委員会」の位置づけが認識され、学校としての体制が見えるようになったと考えられる。 No.13「学校は、効率的・機能的な組織運営の構築(業務改善)に取り組んでいる」の否定的回答が18.2%と昨年度同様に2割弱ある。各校務分掌の業務見直し、毎朝の全体連絡会を「校務PC連絡掲示板での周知」に変更、職員会議の「ペーパーレス化」等も浸透してきてはいるが、引き続き積極的に業務改善に取り組んでいく必要がある。 No.14「学校は、児童生徒の自分らしい姿の実現に向けたキャリア教育を推進している」では、肯定的回答が77.7%となった。昨年度(66.7%)と比べ10%近い上昇がみられる。昨年度までの「どこでもカフェ」「共同学習」を中心とした取り組みが学校全体に浸透してきた成果とも考えられる。今後も、教育課程との連動性や、各学部での連続性のある取組み内容を明確にしながら取り組んでいく必要がある。 No.15「学校は、授業力や専門性の向上のための校内研修や公開授業を実施し、研修体制を整備している」について、否定的回答が18%と昨年度同様に2割弱ある。今年度は「新型コロナウイルス感染症」の影響で、全校の研修については、校内で分散してテレビ中継設備を活用した研修を実施したが、積極的な授業見学やグループでのディスカッションといった体験型の研修は縮小せざるを得ない状況があった今後も、教職員個々の「研究・研修のニーズ」の把握に力を入れ、研修体制の充実を図る必要がある。 学校教育自己診断から見える本校の今後の課題 ・日頃から教職員が「学校の教育課題」を共有し、話し合える風土・場づくりの充実 ・子どもの障がい理解、授業力・専門性を高める研修機会の充実 ・保護者や教職員に向けた「いじめ対策委員会」の体制と機能の周知 ・教育課程づくりへの参画と「キャリア教育」の推進・啓発活動の充実 ・効率的・機能的な組織運営(業務改善)に向けた取り組みの推進</p>	<p>めてはいけない活動があると思う。止めてはならない活動が止まらないための備えを学校全体で共有し、止めない教育の在り方を探り続けてほしい。 ・大変な状況でも、子どもたちの笑顔を引き出し、先生たちの笑顔も引き出されていて子どもたちは育っていくということを感じた。 ・教職員の努力と工夫を感じている。 ・児童生徒を中心として、教職員やPTAの保護者の皆さんの一体感を感じた。大変な状況であるが、それぞれの役割を果たし、子どもの笑顔を引き出し、同じく教職員の笑顔が素晴らしいと感じた。こうした雰囲気の中で子どもたちの成長に繋がっていくのではないかと感じた。 <第3回>令和3年1月26日(火)Web会議 ・学校教育自己診断の結果は、学校の努力が大きく反映し、成果が出ているといえる。 ・学校教育自己診断の否定的回答の部分では、発信の仕方であるのか、職場の関心の問題なのかなど踏み込んだ分析をされるとよい。また改善するためのアイデアを出してもらうなどの工夫も必要であると思う。 ・保護者の回答率を上げるためには、メールで促すことも1つの手である。周知の仕方を考えていくとよいと思う。保護者との懇談会などオンラインでできたらいいと思う。 ・コロナ禍では、さらに担任と子ども、保護者と同じ思いで、人間同士のつながりを大切にしていってほしい。 ・ICTの活用をさらに考えていってほしい。情報発信や情報共有をさらに深めていってほしい。 ・概ね学校はよくやっていると思う。コロナ禍でもあるので、なお一層家庭への支援にも目を向けてつながりを大切にしていってほしい。 ・本年度は、コロナ禍にあつて日常とは違うことがたくさんあつても子どもたちは学校が大好きだし、結果として肯定的な気持ち・意見が多いということは、学校としてコロナ禍に向かう姿勢がよかつたということだと思う。</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育的ニーズを踏まえた教育活動の推進	(1)キャリア教育の推進 (2)自立活動の指導の充実	(1)キャリア教育コーディネーターは、キャリア教育全体計画を推進する ア キャリア教育理解のための取組みの充実 イ 4観点(人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力)を組み込んだ授業シート(キラキラシート)の活用の推進 ウ 学びの連続性の構築のため、学部を超えての共同学習の推進 (2)「パワー自立活動プロジェクト」を活用した授業実践を推進する ア パワープレート等の機器の活用による自立活動の充実 イ 個別の教育支援計画の運用	(1) ア キャリア教育全体計画に基づいた取組みの実践 イ 初任期等の授業研究の際に活用 ウ 共同学習の開催(年2回) キャリア教育に関する肯定的評価(教員・保護者)を78%(H29 62.7% H30 76.1% R1 76.0%)以上 (2) ア 機器の活用方法マニュアル・子どものニーズごとのパワー自立活動マニュアルの作成、研修会2回以上実施 イ 年度内に自立活動の観点を入れた個別の教育支援計画の様式改訂に伴うガイドライン作成 個別の教育支援計画に関する肯定的評価を(教員・保護者)80%(7(H29 84.5% H30 86.5% R1 77.2%))以上	(1)○ ア 校内研修の実施 イ 共同学習、総合、道徳の授業の際にきらきらシート活用、初任期の研修を縮小のため活用せず ウ 共同学習に活用(2回実施) キャリア教育に関する肯定的評価 79.5%(○) (2)○ ア ・マニュアル作成し、実践 ・校内研修2回実施 ・全肢研で「パワー自立活動プロジェクト」についてポスター発表 新規項目 自立活動に関する肯定的評価 93.4%(○) イ 様式改訂、ガイドライン完成 個別の教育支援計画に関する肯定的評価 79.8%(○)
2 専門性と授業力の向上	(1)新学習指導要領に準拠した教育課程の編成に基づく授業実践への取組み (2)多様化する児童生徒への支援における教員の専門性や授業力の向上 (3)教員の働き方改革を進めながら効率的・機能的な運営組織の構築	(1)新学習指導要領に基づいた教育課程を編成した授業実践をする ア 新教育課程に基づいた授業の実践 (2)教員の専門性や授業力の向上のための取組みを推進する ア 育成チーム・システム(首席等によるチーム年間研修)の継続強化 イ 外部研修への積極的派遣 ウ 研究テーマに即した校内研修や様々なニーズに対応できる専門性向上研修の設定 エ ICT 機器等活用した授業の展開 オ 生涯スポーツへの取組み (3)組織運営の再構築をめざす ア 首席の組織連携体制の強化 イ 教員の活力向上と業務軽減を図りながら充実した教育活動を実現するための方策を検討	(1) ア 新教育課程における授業実践への取組み シラバス作成に関する肯定的評価を 83%(H29 76.3% H30 78.3% R1 81.7%)以上 (2) ア 月1回の校内育成チーム研修を継続実施 イ 外部研修への派遣4名以上 ウ 教員のニーズ(重度重複・愛着障がい等)に応じた研修の実施 エ 視線入力機器・電子黒板等活用の授業を各学部で展開 オ ポッチャ・棒サッカー等への取組み 研修体制に関する肯定的評価を 80%(H29 79.9% H30 86.0% R1 77.8%)以上 (3) ア 月1回程度首席連絡会の実施 イ 業務軽減をめざした校務の整理と役割分担の見直し 組織運営に対する肯定的評価を79%(H29 71.9% H30 72.9% R1 77.0%)以上 ストレスチェックの総合健康リスクの値を下げる	(1)○ ア シラバスに基づいた授業実践の実施 シラバス作成に関する肯定的評価を 81.8%(○) (2)○ ア 首席による「スタートアップ講座」において初任教諭へのサポート・指導を毎月実施。 イ 外部研修への派遣5名 ウ 感染症対策研修2回開催 アンガーマネジメント研修 エ 視線入力機器を活用した各学部での授業の実践 オ 体育の授業で実施、体育参観日にも公開 研修体制に関する肯定的評価 79.3%(○) 教員一人ひとりの授業改善に関する肯定的評価 98.3%(○) (3)○ ア 月1回程度の首席連絡会の実施 イ コロナ対策で会議等の縮小軽減はできたが、感染対策や消毒作業などで教職員の業務増 組織運営に対する肯定的評価を 76.0%(△) 職場ストレスチェックの数値 健康リスク全体の数値5ポイント減 114⇒109(◎)

府立箕面支援学校

3 開かれた学校づくり	<p>(1)学校情報の積極的な発信</p> <p>(2)地域における支援教育の専門性向上のためのセンター的機能の充実</p> <p>(3)校内支援の充実</p>	<p>(1) 情報発信の充実をめざす ア 「学校だより」「ブログ」等の積極的な発信 イ 進路に関する情報提供方法の工夫</p> <p>(2) 関係分掌等は支援教育のセンター的機能の充実のための取組みを推進する ア 豊中支援学校との連携を強化 イ 豊能ブロックの市町教育委員会との連携を強化 ウ 箕面市教育委員会との継続連携の強化</p> <p>(3) 校内支援の充実のための取組みを進める ア 相談専任者(校内支援担当 L・S)は、校内支援担当首席と連携しての地域関係機関との協同支援を推進 イ 心理士等の活用 ウ 相談ボックス等活用した校内支援の充実を図る エ 医療的ケア等に関するケース会議の推進</p>	<p>(1) ア ブログ等の更新回数が前年度(106回)を上回る 学校ホームページに関する肯定的評価(教員・保護者)を90%(H29 80.9% H30 91.0% R1 89.3%)以上 イ 進路に関する肯定的な評価(教員・保護者)を88%(H29 72.7% H30 77.0% R1 86.5%)以上</p> <p>(2) ア 豊中支援学校との事業所説明会を共同開催・交流会の実施 イ 豊能ブロックの市町のリーディングチームとの連携強化 ウ 箕面市の支援学級(肢体不自由学級)訪問による箕面市教育委員会との継続した連携の強化(箕面市リーディングチーム会議に参加) 地域支援に対する肯定的評価を93%(H29 79.1% H30 85.3% R1 92.9%)以上</p> <p>(3) ア～ウ 地域関係機関や心理士等の活用による支援体制の強化 エ 保護者・事業所からのニーズの収集 校内支援に関する肯定的評価を93%(H29 79.1% H30 85.3% R1 92.9%)以上</p>	<p>(1)◎ ア ・ブログ回数118回 微増 ・学校だよりやブログ等でタイムリーな情報提供に努めた ・臨時休業中「みのおしえんチャンネル」設立 配信回数96 学校ホームページに関する肯定的評価93.5%(○) イ 進路に関する肯定的な評価88.4%(○)</p> <p>(2)○ ア 豊中支援学校中学部3年生との学年交流会・豊中支援学校小学部6年生との学年交流会をそれぞれ2回開催 イ 豊中支援学校と中津支援学校との連携強化(毎月合同LS会議の実施)・ウ 箕面市との連携強化(○) 箕面市の訪問相談(肢体不自由学級を含む)41件 リーディングチーム会議に参加 地域支援に対する肯定的評価90.1%(○)</p> <p>(3)○ ア～ウ 地域関係機関との連携や臨床心理士による校内支援の充実(支援ケース会議5ケース以上・臨床心理による支援3日) エ ケース会議開催3ケース 校内支援に対する肯定的評価90.1%(○)</p>
4 安心で安全な学校づくり	<p>(1)人権教育の総合的な推進</p> <p>(2)大規模災害への具体的対応策の推進・強化</p> <p>(3)医療的ケアを必要とする児童生徒の安全確保の推進</p>	<p>(1)人権啓発活動・教育の推進を継続する ア 児童生徒による人権啓発活動の継続 イ 安全で安心な学校づくり推進事業参加 ウ 研修および人権教育の実施 エ 地域の小中学校への人権啓発活動(出前授業)</p> <p>(2)大規模災害対応のための安全対策・安全教育を充実する ア 実践的な訓練の実施と検証。 イ 備蓄品の充実</p> <p>(3)医療的ケア部を中心に、人工呼吸器が必要な児童生徒をはじめ、安全な医療的ケア実施のために以下の取組みを推進する ア システムチックな看護師体制確立 イ 教員、養護教諭、看護師の連携強化 ウ 医療・福祉等関係機関との相互連携体制強化</p>	<p>(1)ア～エ ・人権に関する研修を2回実施 ・箕面市教委との連携を確立し、箕面市立学校への「人権に関する授業」を実施(5校) ・人権活動、人権意識に関する肯定的評価を93%(H29 76.2% H30 81.1% R1 93.7%)以上</p> <p>(2) ア 現実的課題を想定した防災訓練(地震・火災等)や引き渡し訓練実施 イ 備蓄品の充実 防災対策に対する肯定的評価(教員・保護者)を98%(H29 86.7% H30 93.4% R1 97.4%)以上</p> <p>(3) ア 看護師研修(3回実施)巡回相談医の活用、保健室との連携 イ 医療的ケアコーディネーターの役割の配置 ウ 主治医等の学校見学会・指導医の活用の定着 医療的ケアに対する肯定的評価(教員・保護者)を92%(H29 89.1% H30 91.3% R1 90.2%)以上</p>	<p>(1)○ ア イ 児童生徒会による始業、終業の日の進行、昼休み校内放送企画 ウ 人権研修2回実施(子どもの行動支援・同和教育) エ 出前授業6校実施(コロナ禍にて中止2校あり) 人権に関する肯定的評価92.5%(○)</p> <p>(2)○ ア・避難訓練1回実施(○) ・防災の専門家による防災研修の実施・マニュアル等見直し・引き渡し訓練はコロナ禍により中止 イ 事務室の一角に災害本部機能を兼ねた場所を設置(○) 防災対策に対する肯定的評価94.8%(△)</p> <p>(3)○ ア 看護師研修2回の実施 イ 看護師との毎日打合せ会の実施 ウ 医療・福祉等関係機関学校見学会はコロナ禍により2月17日 Web 開催 指導医による巡回相談を年間10回開催 医療的ケアに対する肯定的評価92.4%(○)</p>